

第3章 管理機関の役割

1-1 管理機関における活動実績

■ 実施内容及び日程

実施内容	日 程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会		○									○	
コンソーシアム会議		○									○	
学校訪問指導 (授業 探究活動 発表会等)		○	○				○		○		○	
ネットワーク研修								○	○			
県外先進校視察						○						
県の研究報告会における成果普及											○	
高校との事業進捗確認	随 時											

【成果】

運営指導委員会及びコンソーシアム会議をそれぞれ年2回開催し、事業内容について、特に以下の項目について指導・助言を受け、その後の事業展開について学校と協議した。

- ・指導と評価の一体化を目指すカリキュラム開発
- ・中高連携、高大連携による生徒の資質・能力の育成
- ・県内外の高等学校との連携による教員・生徒の資質・能力の向上

探究活動や課題研究発表会（6月、10月）や、県内他校とのネットワーク研修会に参加（12月）し、事業の実施状況を把握した。

ループリックの改善に向けて、生徒や地域の方の関わりや、地域課題探究学習と授業のつながり等について、事業の改善への提案を行った。

先進的な取組等を行っている県外高校を、松浦高校とともに視察し、管理機関としての支援体制についての意見交換を行った。

〔視察先および主な聴取内容〕

○兵庫県立柏原高校（9月21日）

- ・コーディネーターの役割や情報共有について
- ・新学科の設置について 等

高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業における研修会に、年間を通じて参加し、他県の関係者と意見交換を行った。

長崎県教育委員会主催の「研究指定校等に係る研究報告会」において、松浦高校が発表し、成果の普及を図った。

開催日：令和7年2月4日（火）

参加者：県内の公立私立高校 66校 78名

【次年度以降の取組】

本事業で構築したコンソーシアムの機能をコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）へ移行し、運営の更なる充実を図る。

生徒にとって非認知能力向上及び自己肯定感の醸成につながるルーブリック作成の支援の継続。

コーディネーターの活動の充実を図るため、県内の他地域や他県のコーディネーター設置校と連携し、オンライン会議や学校訪問などを通してネットワークの構築を図る。

1 - 2 管理機関における事業全体の成果検証、評価

本構想において実現する成果指標は、次の3つである。なお、成果の検証は、生徒へのアンケートおよび生徒のルーブリック評価により行った。

キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率（％）

発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）

育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力等）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

成果指標：キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率（％）

○アンケートの質問内容

まつナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを『自分ごと』として考える力（キャリア形成力）が高まったと思うか。

○結果

地域科学科生徒の実績値：84.7％（令和6年度成果目標値：95％）

○評価

- ・キャリア形成力が高まった（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は84.7％であり目標値は達成できなかった。
- ・まつナビ・プロジェクトの活動と進路がしっかり結びつく、あるいは進路を自分ごととして、早い時期から具体的に探究していく計画を立てる必要がある。

成果指標：発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）

○アンケートの質問内容

あなたの班の地域課題解決型学習のテーマは地域活性化につながると思うか。

○結果

地域科学科生徒の実績値：90.8％（令和6年度成果目標値：90％）

○評価

- ・地域活性化につながると思う（「そう思う」「ある程度そう思う」）と回答した地域科学科の生徒は90.8％で目標値を達成した。
- ・地域科学科の生徒が、地域の方々や松浦市職員、大学教授及び大学生との探究活動（協働学習）において主体的に活動する姿が見られた。また、これまでの活動と同じように商業科との協働により、地域課題探究学習が推進された。
- ・次年度以降も生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのマッチングを図り、地域と連携した取組の充実が必要である。
- ・中高および高大の連携交流の充実を図ることで、さらに「地域活性化に貢献したい」という気持ちの醸成が必要である。

成果指標：育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

○結果

地域科学科生徒の実績値：3.04（令和6年度成果目標値：4.00）

○評価

- ・ルーブリック評価における目標値の4.00に対して、結果が3.04であり、目標を下回った。しかし、昨年度の2.99より上昇傾向が見られる。主な内訳は以下のとおりである。なお、普通を「3」として、生徒は1～5段階で自己評価している。

情報理解・収集力（3.17）

プレゼンテーション力（3.00）

テーマ設定力／課題発見力（3.10）

コミュニケーション力（3.23） 最も高い

論理的思考力（2.95）

キャリア形成力（2.83） 最も低い

ふるさと貢献力（2.99）

・ループリック評価について、校内の教員で企画・運営する活性化ミーティングだけでなく、地域を巻き込んだ協議を継続して行うため、令和7年度から設置するコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の設置とその充実を図る。

【次年度以降の管理機関の支援】

生徒にとって分かりやすいループリックの改善について、学びアドバイザーとともに指導・助言を行う。

ループリックによる指導と評価の一体化を更に推進するため、外部アセスメントによる評価結果の検証の支援を行う。

これまで連携をとってきた県内の「地域に根差した高等学校」との関係を継続しつつ、各校魅力化に向けた生徒間交流等の支援を行う。

本事業で構築したコンソーシアムをコミュニティ・スクールに移行し、新規校として運営の支援を行う。

県内の他校地域のコーディネーターとの情報交換の場の設置や研修会の実施など、コーディネーターの資質向上を図る。

普通科改革について、国の動向を把握しながら学校と情報交換を行い方向性の検討を行う。

第4章 事業検証

1-1 今年度と3年間の目標設定についての検証

(1) 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値（4年度）
質問内容：まつナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを『自分ごと』として考える力（キャリア形成力）が高まったと思うか。						
（成果目標）						単位：％
キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率						
本事業対象生徒：			85	90	95	85
本事業対象生徒以外：	75	75	80	85	90	80
実績			87.1	91.3	84.7	
目標設定の考え方：令和3年度の卒業生の進学先をもとに算出						
評価						
・キャリア形成力が高まった（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は84.7％であり、令和5年度より6.6ポイント減少した。						
・まつナビ・プロジェクトの活動と進路がしっかり結びつく、あるいは進路を自分ごととして、早い時期から具体的に探究していく計画を立てる必要がある。						

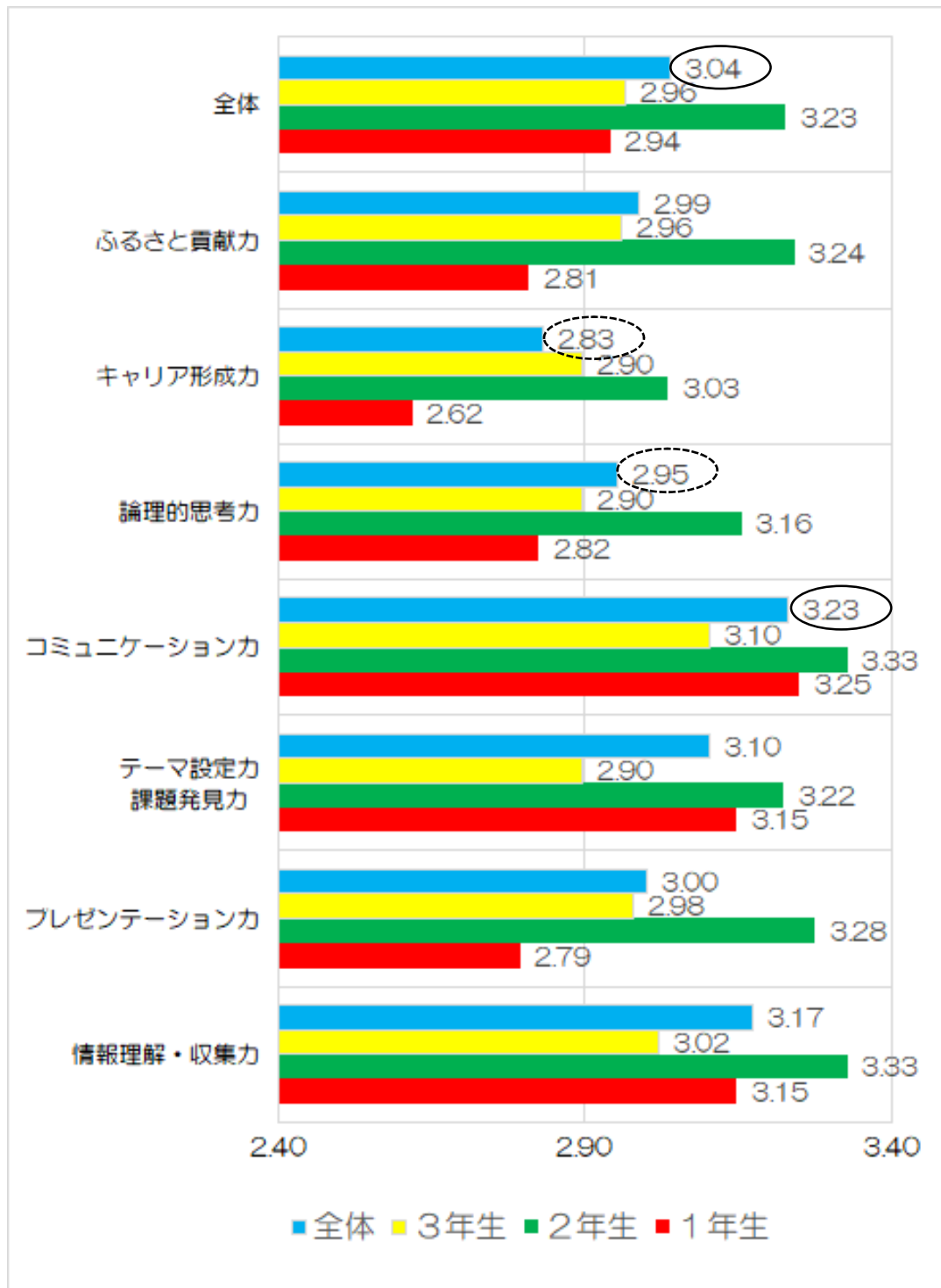
本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値（4年度）
質問内容：あなたの班の地域課題解決型学習のテーマは地域活性化につながると思うか。						
（成果目標）						単位：％
発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合						
本事業対象生徒：			80	85	90	80
本事業対象生徒以外：	70	70	75	80	85	75
実績			100.0	91.3	90.8	
目標設定の考え方：令和3年度学校設定科目、課題探究活動「まつナビ・プロジェクト」の研究プロジェクト10をもとに算出						
評価						
・地域活性化につながると思う（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は90.8％で今年度の目標値を超えた。						
・地域科学科の多くの生徒が、松浦市職員、大学教授及び大学生との探究活動（協働学習）において主体的に活動する姿が見られた。また、これまでの活動と同じように商業科との協働により、地域課題探究学習が推進された。						
・次年度以降も生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのマッチングを図り、地域と連携した取組の充実が必要である。						
・中高および高大の連携交流により、自分の研究について理解を深めることで、さらに「地域活性化に貢献したい」という気持ちの醸成が必要である。						

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値（4年度）
（成果目標）						単位：ポイント
育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力等）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値						
本事業対象生徒：			3.0	3.5	4.0	3.0
本事業対象生徒以外：			2.8	3.2	3.8	2.8
実績			1.54	2.99	3.04	
目標設定の考え方：令和3年度まつナビ・プロジェクトにおける生徒自己評価の平均値をもとに算出						
評価						
・ルーブリック評価における目標値の4.00に対して、結果が3.04であり、目標を下回った。しかし、昨年度の2.99より上昇傾向が見られる。主な内訳は以下のとおりである。ただし、普通を「3」として、生徒は1～5段階で自己評価している。						
①情報理解・収集力（3.17）						
②プレゼンテーション力（3.00）						
③テーマ設定力／課題発見力（3.10）						
④コミュニケーション力（3.23）⇒最も高い						
⑤論理的思考力（2.95）						
⑥キャリア形成力（2.83）⇒最も低い						
⑦ふるさと貢献力（2.99）						
・ルーブリック評価について、校内の教員で企画・運営する活性化ミーティングだけでなく、地域を巻き込んだ協議を継続して行い、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の設置とその充実を図ることが必要である。						

■ルーブリックによる生徒自己評価より

評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力等			主体的に学習に取り組む態度	
育成を図る 資質能力等	情報理解・ 収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力 課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力
評価規準	①入手した情報や知識・技能についてまとめることができるか。	②パワーポイントやポスターに、見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	③課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができているか。	④地域や班活動で協働する力がついているか	⑤今後の展望（提言・実践）が明確か	⑥課題研究活動と自分の進路がつながっており、その実現に向けて行動できているか。	⑦課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとする態度が醸成されているか。
段階(基準)							
C	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識について、まとめることができている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができる。	自分の将来について考えることができる。	ふるさとに貢献しようとしている。
B	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができる。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫をしようとしている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定しようとしている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解しようとしている。	課題研究活動の成果と課題を示そうとしている。	自分の将来を考えようとしている。	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとしている。
A (ふつつ)	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができる。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができる。	自分の将来について考えることができる。	課題研究活動が、ふるさとに貢献しようとする態度につながっている。
S	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめ、比較・分類ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、時間内にかつ原稿をあまり見ずに聞き手を見ながら発表ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を道すじを立てて表現することができる。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成(進路実現)と結びつけた課題研究活動の計画を立てている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明できている。
SS	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た情報や知識をまとめ、比較・分類した上で要・不要の取捨選択ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、身振り手振りを加え、時間内にかつ原稿に目を通さずに聞き手を見ながら発表できている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた表現可能な課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の内容を整理・分析し、成果と課題を道すじを立てた将来の展望を表現することができる。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成(進路実現)に向けた計画を立て、その実現に向けた課題研究活動ができている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明できている。

■ 生徒による自己評価結果

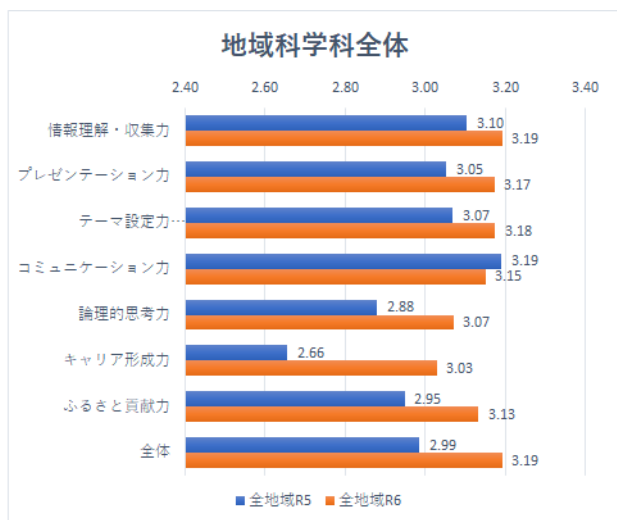
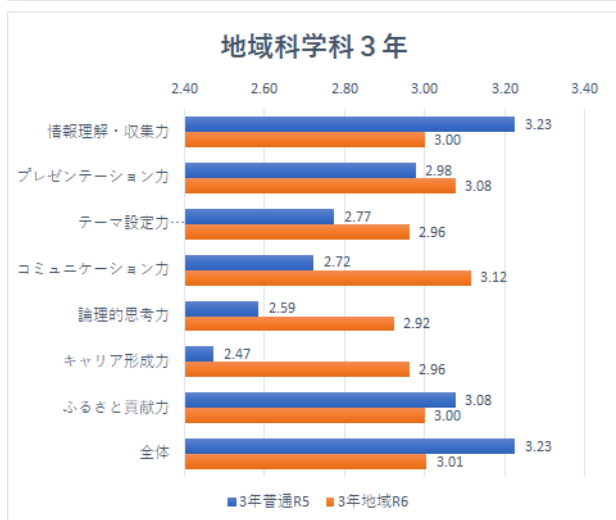
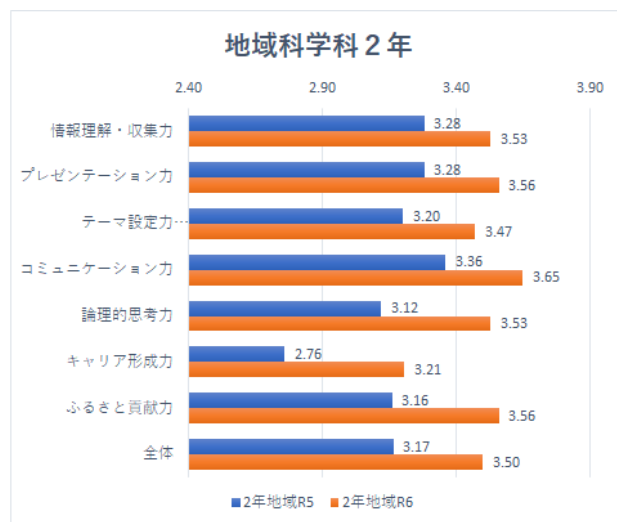
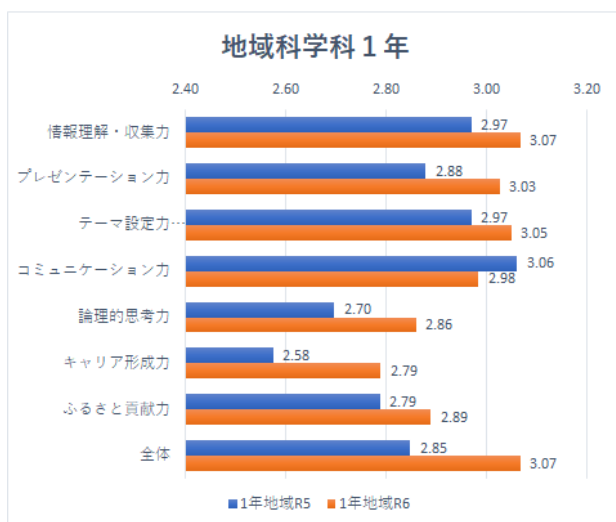


○全体については、昨年度は2.99であったが、今年度は3.04であった。いずれの項目も2年生が高くなっている。

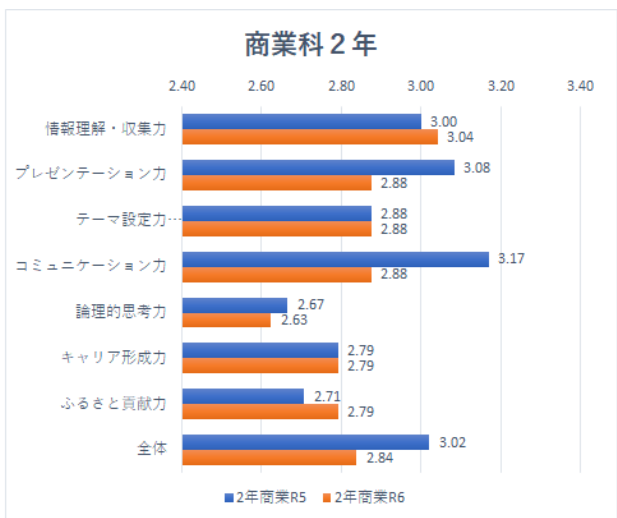
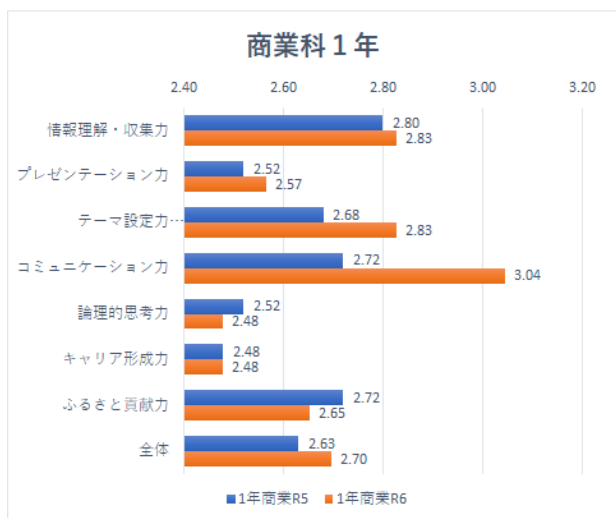
○項目別にみると、「コミュニケーション力」が全体で3.23と最も高く、キャリア形成力は2.83と最も低くなっている。まつナビ・プロジェクトの探究活動を通して、キャリア形成につながるような取り組みであることを生徒が実感していないことがわかる。

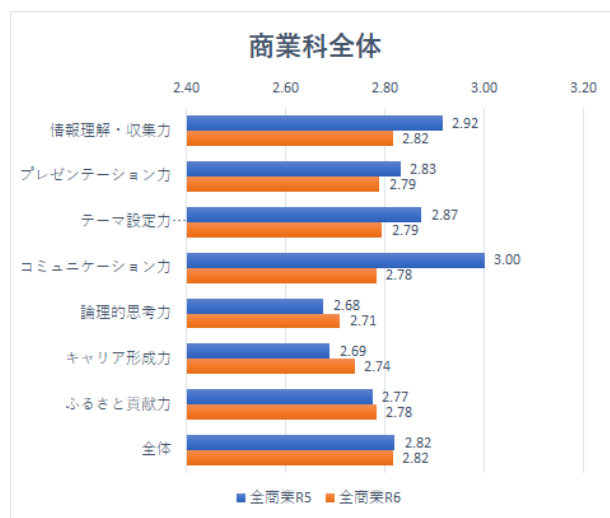
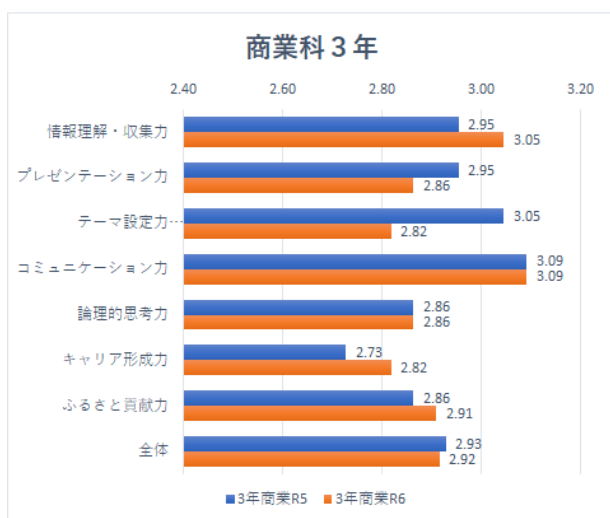
■ 学科別

● 地域科学科

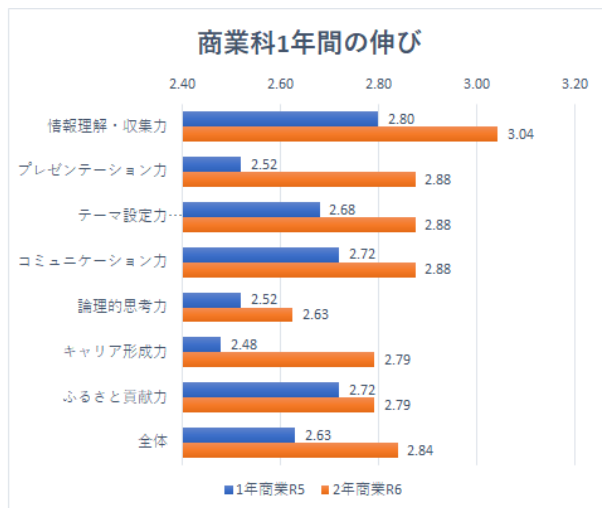
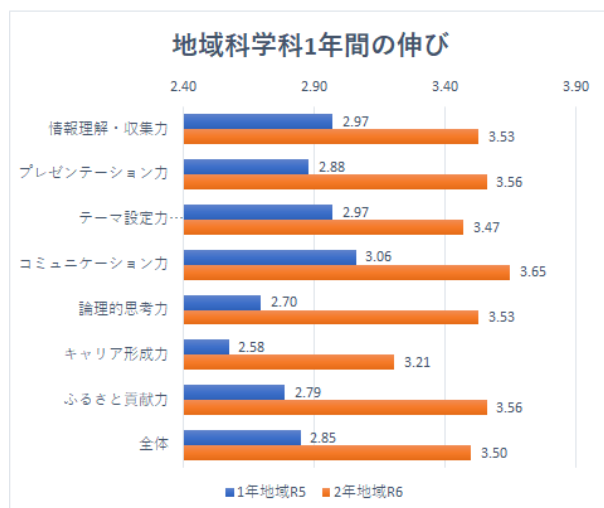


● 商業科





●この1年間の1年生から2年生への変化



○地域科学科は、いずれの項目も昨年度より伸びており、特に1年次に力を入れてきた、「情報理解・収集力」や「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」、「論理的思考力」、「ふるさと貢献力」は3.50を超えていずれも伸びが大きくなっている。

○商業科はいずれも伸びており、特に「キャリア形成力」の伸びは大きかった。しかし、基準となる、3.00を超えているのは、「情報理解・収集力」のみであった。

(2) 本校独自のアンケート結果より

令和2年から4年度まで研究指定を受けていた文科省委託事業（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）で実施していたアンケートを今年度も継続して実施した。

4：とてもそう思う。3：まあそう思う。
2：あまりそうは思わない。1：全くそうは思わない。

< 松浦に関する知識 >

- ア 松浦の歴史や文化について、知っている。
- イ 松浦の自然について、知っている。
- ウ 松浦の産業やその特色などについて、知っている。
- エ 松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。
- オ 地域の課題解決の方法を、考えたことがある。

< ふるさとや松浦に対する意識 >

- カ 自分のふるさとや松浦のことが、好きである。
- キ 地域の課題を解決したり、地域を活性化したりする活動に、興味を持っている。
- ク 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターン者の移住者から多くのことを学んでみたい。
- ケ 地域課題の成果を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。
(そう思ったことがある)

< 進学希望先別の意識 > 質問サ、質問シのうち当てはまるものを答えてください。第1希望のみ。

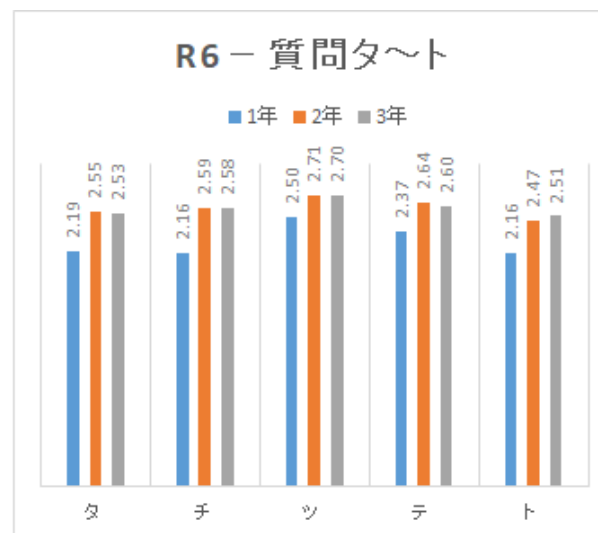
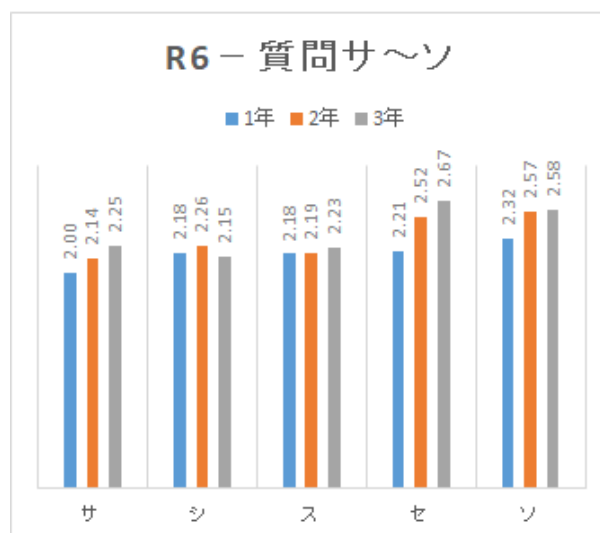
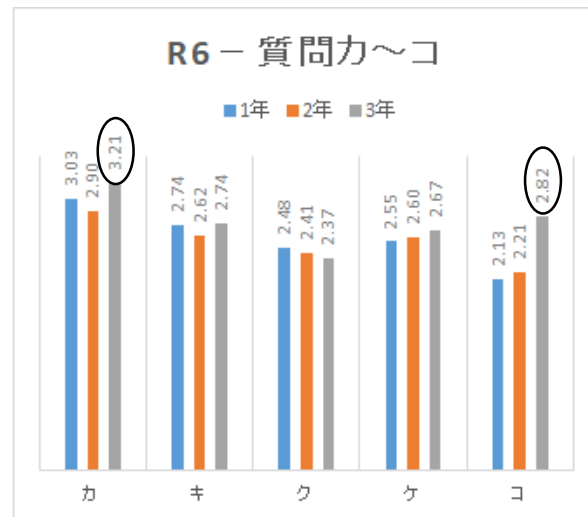
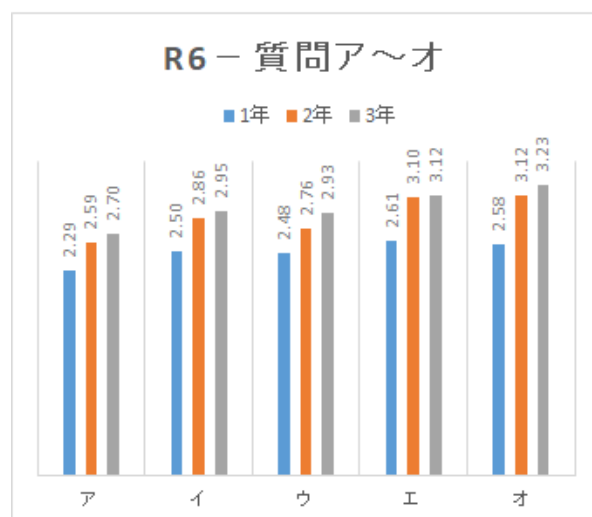
- コ 高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。(長崎県内就職も考えている)
- サ 高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい。
(Uターン先は松浦市ではなく「長崎県内」です。進学希望者は大学だけでなく、短大、専門学校等も含みます。)
- シ 大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学したい。
(大学等とは四年制大学及び短大です。学部・学科は地域系、経済系や社会学系、国際系及び教員養成、文学・語学系、保育等です)

< 自分の学力の分析 >

- ス 自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある。
- セ 自分は、フィールドワークの結果を分析する力がある。
- ソ 自分は、地域の課題を改善する方法を考える力がある。
- タ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。
- チ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。
- ツ いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。
- テ ふるさとに関する課題を発見し、研究テーマを設定する力がある。
- ト 道理や筋道に従いながら考え、結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。

● アンケート調査結果一覧

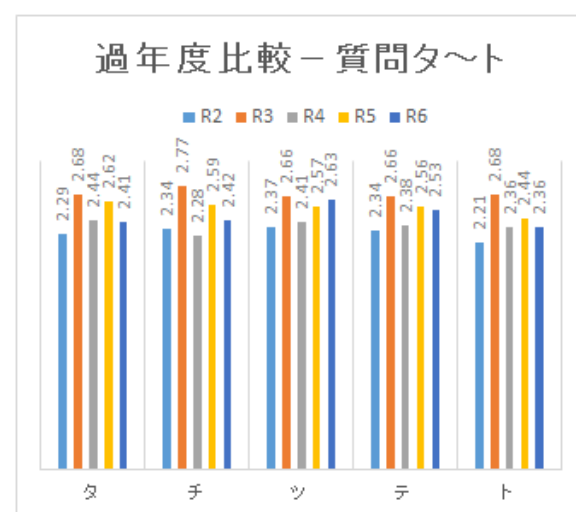
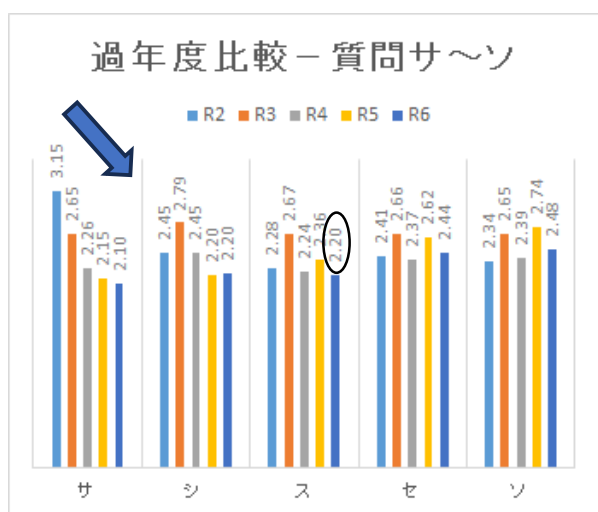
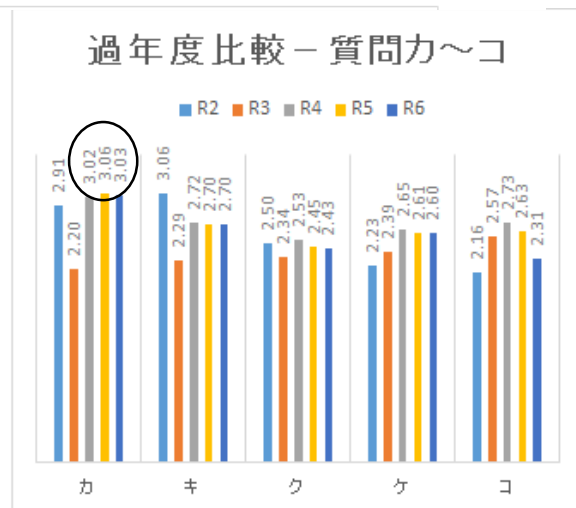
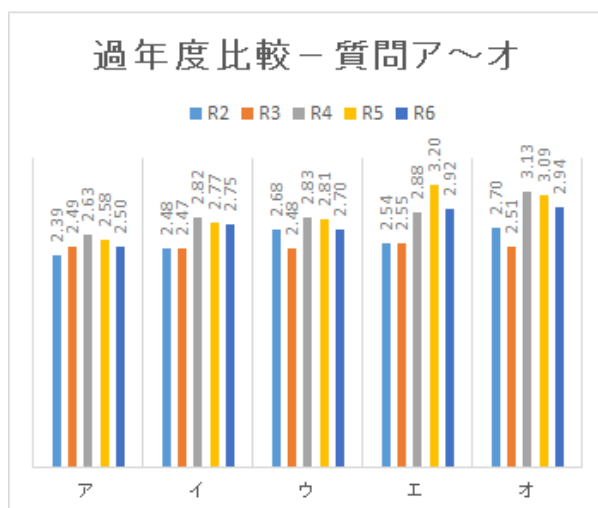
	対象	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R6	1年	2.29	2.50	2.48	2.61	2.58	3.03	2.74	2.48	2.55	2.13	2.00	2.18	2.18	2.21	2.32	2.19	2.16	2.50	2.37	2.16
	2年	2.59	2.86	2.76	3.10	3.12	2.90	2.62	2.41	2.60	2.21	2.14	2.26	2.19	2.52	2.57	2.55	2.59	2.71	2.64	2.47
	3年	2.70	2.95	2.93	3.12	3.23	3.21	2.74	2.37	2.67	2.82	2.25	2.15	2.23	2.67	2.58	2.53	2.58	2.70	2.60	2.51
	全体	2.50	2.75	2.70	2.92	2.94	3.03	2.70	2.43	2.60	2.31	2.10	2.20	2.20	2.44	2.48	2.41	2.42	2.63	2.53	2.36
R5	1年	2.36	2.60	2.67	2.90	2.90	2.90	2.78	2.54	2.70	2.30	1.95	1.93	2.34	2.54	2.57	2.60	2.57	2.53	2.53	2.37
	2年	2.69	2.90	2.88	3.14	3.27	3.04	2.69	2.27	2.59	2.61	2.05	2.00	2.22	2.59	2.55	2.57	2.57	2.47	2.59	2.33
	3年	2.68	2.82	2.88	2.78	3.13	3.21	2.64	2.50	2.56	3.03	2.39	2.81	2.46	2.71	2.74	2.67	2.61	2.67	2.56	2.57
	全体	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44
R4	1年	2.49	2.69	2.67	2.97	2.82	2.97	2.79	2.59	2.59	2.21	2.00	2.17	1.95	1.97	2.15	2.10	1.90	2.13	2.31	2.03
	2年	2.58	2.70	2.68	2.68	3.00	2.93	2.53	2.45	2.58	2.70	2.38	2.37	2.08	2.33	2.33	2.46	2.30	2.38	2.25	2.33
	3年	2.74	2.95	3.00	2.95	3.35	3.09	2.78	2.53	2.73	3.00	2.35	2.65	2.47	2.59	2.55	2.59	2.45	2.57	2.48	2.55
	全体	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R3	1年	2.67	2.50	2.50	2.50	2.42	1.99	2.22	2.42	2.59	2.58	2.90	2.87	2.89	2.86	2.75	2.87	3.00	2.77	2.82	2.91
	2年	2.39	2.30	2.20	2.33	2.12	2.09	2.36	2.50	2.42	2.51	2.84	2.73	2.70	2.57	2.62	2.61	2.72	2.61	2.71	2.72
	3年	2.34	2.63	2.82	2.88	3.18	2.66	2.30	2.00	2.09	2.78	1.94	2.64	2.27	2.50	2.54	2.50	2.45	2.54	2.36	2.29
	全体	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R2	1年	2.54	2.53	2.67	2.51	2.56	2.77	2.97	2.51	2.28	2.21	2.97	2.44	2.32	2.33	2.45	2.13	2.20	2.19	2.27	2.07
	2年	2.17	2.55	2.71	2.67	2.98	2.86	3.05	2.45	2.26	2.13	3.34	2.28	2.07	2.12	2.05	2.28	2.38	2.50	2.38	2.34
	3年	2.39	2.39	2.68	2.49	2.67	3.07	3.14	2.52	2.16	2.13	3.19	2.55	2.36	2.65	2.42	2.44	2.45	2.45	2.37	2.28
	全体	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21



○ 全体的に学年が上がるごとに数値は上がっていく傾向が見られる。

● 過年度比較

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R2	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21
R3	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R4	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R5	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44
R6	2.50	2.75	2.70	2.92	2.94	3.03	2.70	2.43	2.60	2.31	2.10	2.20	2.20	2.44	2.48	2.41	2.42	2.63	2.53	2.36



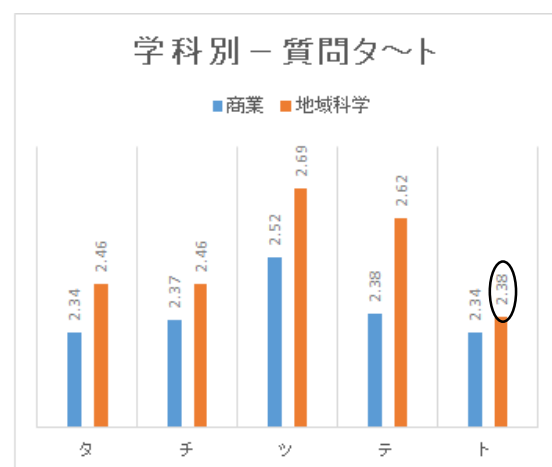
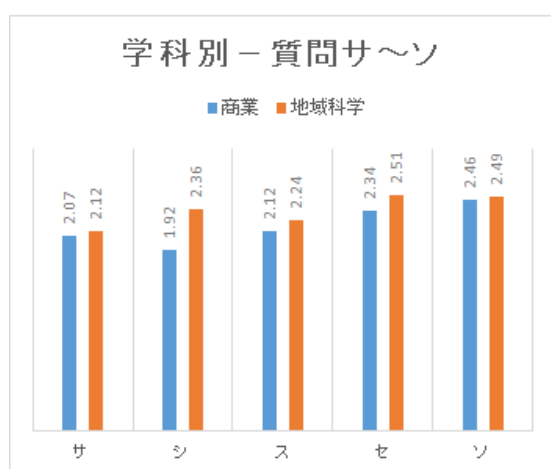
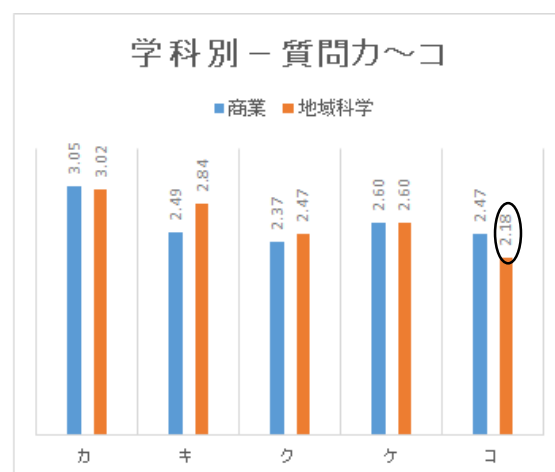
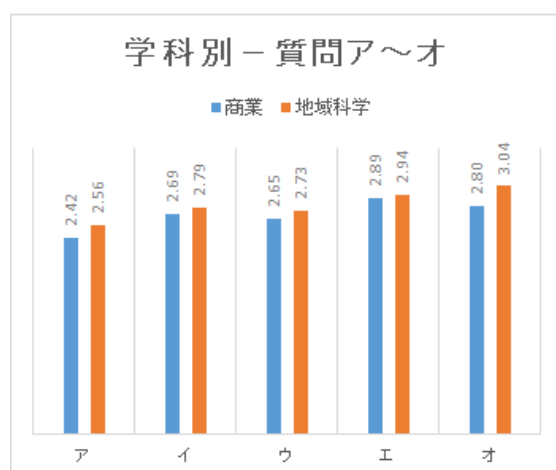
○質問サ「高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい」は、この5年間一貫して減少している。

○質問カ「自分のふるさとや松浦のことが好きである」は、本事業をはじめて3年間、3.00を超えており高い傾向がみられる。

○フィールドワークや仕事図鑑等、地域でのインタビューする機会を設定しているが、質問ス「自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある」は過去5年間で2.20と最も低くなっている。

●学科別

R6		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
商業	全体	2.42	2.69	2.65	2.89	2.80	3.05	2.49	2.37	2.60	2.47	2.07	1.92	2.12	2.34	2.46	2.34	2.37	2.52	2.38	2.34
	3年	2.72	2.94	3.00	3.11	3.06	3.11	2.50	2.33	2.56	3.14	2.11	1.60	2.33	2.67	2.67	2.44	2.56	2.56	2.50	2.39
	2年	2.52	2.88	2.76	3.16	3.08	2.92	2.48	2.36	2.68	2.30	2.13	1.73	2.04	2.52	2.64	2.60	2.60	2.68	2.52	2.60
	1年	2.05	2.27	2.23	2.41	2.27	3.14	2.50	2.41	2.55	2.19	2.00	2.16	2.05	1.86	2.09	1.95	1.95	2.32	2.14	2.00
	全体	2.56	2.79	2.73	2.94	3.04	3.02	2.84	2.47	2.60	2.18	2.12	2.36	2.24	2.51	2.49	2.46	2.46	2.69	2.62	2.38
地域科学	3年	2.68	2.96	2.88	3.12	3.36	3.28	2.92	2.40	2.76	2.50	2.32	2.33	2.16	2.68	2.52	2.60	2.60	2.80	2.68	2.60
	2年	2.64	2.85	2.76	3.06	3.15	2.88	2.73	2.45	2.55	2.12	2.14	2.58	2.30	2.52	2.52	2.52	2.58	2.73	2.73	2.36
	1年	2.43	2.63	2.63	2.73	2.75	2.98	2.88	2.53	2.55	2.09	2.00	2.19	2.25	2.40	2.45	2.33	2.28	2.60	2.50	2.25
	全体	2.56	2.79	2.73	2.94	3.04	3.02	2.84	2.47	2.60	2.18	2.12	2.36	2.24	2.51	2.49	2.46	2.46	2.69	2.62	2.38
	3年	2.68	2.96	2.88	3.12	3.36	3.28	2.92	2.40	2.76	2.50	2.32	2.33	2.16	2.68	2.52	2.60	2.60	2.80	2.68	2.60



○質問タ～トにおいて、商業科は昨年度と同様に、地域科学科よりも低い傾向が続いている。

○商業科は地域科学科と比較しても、質問コ「高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。」と考える値が高い。地域科学科はこの調査項目が最も低い値となっている（2.18）。

○質問ト「道理や道筋に従いながら考え、結論を導き、結論についてわかりやすく説明する力がある。」については、地域科学科で全調査中 2.38 と質問コに次いで、低くなっている。

(3) 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングアンケート結果より～

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが実施している「高校魅力化評価システム」より、本校の実態を全国の平均と比較し、相対的な分析を行う。また、3年間に於ける各アンケート項目の変化を分析し、本事業における効果と課題の検討を行う。今年度はアンケートの実施を9月に行った。本アンケートについては、各アンケート項目において肯定的回答をした割合を用いて以下の視点から分析を行った。

本校の強み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上高い項目
本校の弱み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目
本校の課題：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目かつ本校の平均値が3年間で右肩下がり項目
本校の変化：本校の平均値が3年間で10%以上伸びた項目

【結果】

■生徒アンケート結果

本校の強み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上高い項目

29. 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある
32. 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
61. 地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる
70. 地域社会などでボランティア活動に参加した

- ・「地域」に対して肯定的な回答をしている生徒が多いことが分かる。「まつナビ・プロジェクト」を通して生徒自身も地域と結びついている実感を得ている。
- ・「地域科学科」を設置している学校として、スクールミッション、グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシーに掲げた「地域との繋がり」や「課題解決」について目標達成していると評価できる。

本校の弱み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目

39. 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる
37. うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む
67. 学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている
45. 情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる
46. 勉強したものを実際に応用してみる
41. 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ
57. 私が関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない
63. 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う
73. 友人などから、意見やアドバイスを求められた

- ・探究のプロセスにあたる「課題の設定」→「情報理解・収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」において、本校ルーブリックの「テーマ設定力・課題発見力」と「論理的思考力」が弱いことが分かる。
- ・探究を通して得た基礎知識を、特にデータ分析等で応用まで発展させる力が低いことも本校の弱みとなっている。

本校の課題：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目かつ本校の平均値が3年間で右肩下がり項目

13. 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う
34. 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
54. 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする
75. 授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした
76. 公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした
88. この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる

- ・ 情報理解・収集力、思考力の育成が不十分であるという課題が解決できていない。
- ・ グループ活動は活発に行っているが、チームでの協働が苦手な傾向がある。
- ・ 将来の生活の起点を「松浦」と考えている生徒は増えていない。

本校の変化：本校の平均値が3年間で10%以上伸びた項目

12. 活動、学習のまとめを発表する
85. 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う
90. この学校を中学生におすすめできる

- ・ 構想、中間、最終（課題探究）発表会や、特に外部コンテストへの出場が増え、プレゼンテーション力は向上している。
- ・ 特に「この学校を中学生におすすめできる」という設問に関しては、全国平均値と比較しても10%以上高い値が出ており、「まっナビ・プロジェクト」を通して生徒にとっての本校の魅力が向上していると評価できる。

【分析】

- ・ 論理的思考力の育成が十分に図ることができていない。また、探究に必要な力（スキル）の育成が不十分である。
 - 探究学習と教科学習との連携を図る必要がある。
 - 授業内でスキルアップ講座（聴く力、まとめる力、分析力、質問力など）を行う。
 - 教員、地域、コーディネーターが協働し、外に出ることが目的にならないフィールドワークを実施する。
- ・ 魅力ある地域づくりの担い手をどう育成していくか。
 - 地域の課題解決において「課題」の深掘りは行うが、「魅力の再発見」まで実施できていない。生徒が地域の魅力を感じ、再発見でき、地域の担い手として成長できるように、地域連携について再検討する必要がある。

■教員・地域（大人向け）アンケート

教員の学び、学校組織に関する成果

質問事項	教職員・関係者向け質問項目	2023	2024	前年比
その他	23.今の生活全般の満足度	41.3%	57.6%	16.3pt
協働性・学習環境づくり	7.自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている	56.5%	72.7%	16.2pt
その他	24.普段のあなたの幸福度	50.0%	63.6%	13.6pt
探究性・学習環境づくり	10.本音を気兼ねなく発言できる	54.3%	66.7%	12.4pt
主体性・学習環境づくり	22.子どもの自己決定を尊重できている	82.6%	93.9%	11.3pt
探究性・学習環境づくり	17.生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができています	71.7%	81.8%	10.1pt
その他	29.（地域・社会との協働を通して）自身の資質・能力の向上につながっている（教職員のみ）	71.4%	80.0%	8.6pt
その他	30.（地域・社会との協働を通して）学習意欲が高まった生徒がいる（教職員のみ）	57.1%	65.0%	7.9pt
主体性・学習環境づくり	5.失敗を恐れずに挑戦することができている	73.9%	81.8%	7.9pt
その他	27.この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	63.0%	69.7%	6.7pt

・教員の探究活動に関するスキルや生徒への伴走のスキルは身に付いてきている

教員の学び、学校組織に関する課題：

質問事項	教職員・関係者向け質問項目	2023	2024	前年比
探究性・学習環境づくり	11.地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる	60.9%	54.5%	-6.4%
社会性・学習環境づくり	19.生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	82.6%	72.7%	-9.9%
協働性・学習環境づくり	15.自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している	87.0%	75.8%	-11.2%
その他	28.（地域・社会との協働を通して）授業の質の向上につながっている（教職員のみ）	57.1%	45.0%	-12.1%

・探究と授業との往還が不十分（授業改善が不十分）

■ 参考資料（生徒アンケート結果）

質問事項	回答者数	2022年度	2023年度	2024年度	前年度	前年度全国平均
【主体性に関わる学習活動】		206人	180人	163人	-	-
5.自主的に調べ物や取材を行う		50.7%	53.9%	58.3%	4.4pt	7.0pt
6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く		66.5%	69.4%	69.9%	0.5pt	-2.0pt
【協働性に関わる学習活動】		35.0%	38.3%	46.6%	8.3pt	15.9pt
7.グループで協力しながら学習や調べものを行う		69.7%	78.9%	77.5%	-1.4pt	3.0pt
8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う		83.0%	91.1%	87.1%	-4.0pt	3.7pt
9.活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う		81.6%	87.2%	88.3%	1.1pt	0.6pt
13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う		50.5%	-	-	-	-
【探究性に関わる学習活動】		63.6%	58.3%	57.1%	-1.2pt	-9.7pt
10.自分の考えを文章や図表にまとめる		61.3%	55.6%	58.0%	2.4pt	-9.2pt
11.話し合った内容をまとめる		49.5%	49.4%	57.1%	7.7pt	-9.0pt
12.活動、学習のまとめを発表する		69.4%	-	-	-	-
【社会性に関わる学習活動】		65.0%	61.7%	58.9%	-2.8pt	-6.0pt
14.地域の魅力や資源について考える		64.7%	54.7%	58.9%	4.2pt	11.1pt
15.地域の課題の解決方法について考える		71.4%	-	-	-	-
16.日本や世界の課題の解決方法について考える		79.6%	76.1%	70.6%	-5.5pt	24.5pt
【主体性に関わる学習環境】		43.2%	33.3%	47.2%	13.9pt	-2.4pt
20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある		81.1%	86.7%	84.9%	-1.8pt	-2.1pt
21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある		73.8%	78.9%	74.8%	-4.1pt	-4.3pt
26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる		87.9%	-	-	-	-
33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がある		87.9%	93.3%	89.0%	-4.3pt	-1.8pt
35.周りの大人は、自分に関わることにについて自分で決めることを尊重してくれる		71.8%	-	-	-	-
【協働性に関わる学習環境】		84.0%	87.8%	90.8%	3.0pt	0.9pt
22.人と違うことが尊重される雰囲気がある		70.9%	67.2%	71.6%	4.4pt	-4.0pt
23.ありのままの自分が尊重される雰囲気がある		71.8%	73.3%	74.8%	1.5pt	-6.8pt
27.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある		75.7%	-	-	-	-
28.立場や役割を超えて協働する機会がある		75.7%	-	-	-	-
30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある		68.4%	72.2%	76.7%	4.5pt	0.6pt
【探究性に関わる学習環境】		62.6%	56.1%	63.2%	7.1pt	0pt
17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある		72.5%	76.4%	78.1%	1.7pt	-3.0pt
18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる		77.2%	78.9%	76.7%	-2.2pt	-6.2pt
24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる		74.8%	77.8%	78.5%	0.7pt	-2.7pt
31.お互いに問いかけあう機会がある		82.5%	83.3%	89.0%	5.7pt	0.8pt
36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある		64.6%	-	-	-	-
【社会性に関わる学習環境】		63.6%	65.6%	68.1%	2.5pt	-5.6pt
19.地域から大切にされている雰囲気を感じる		69.6%	67.5%	67.5%	0pt	6.4pt
25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡ししてくれる大人がいる		81.1%	-	-	-	-
29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある		78.2%	83.3%	79.8%	-3.5pt	3.3pt
32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある		80.1%	83.3%	81.6%	-1.7pt	25.8pt
34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる		63.6%	60.6%	67.5%	6.9pt	13.5pt
【主体性に関わる自己認識】		45.1%	42.8%	41.1%	-1.7pt	-11.7pt
51.自分にはよいところがあると思う		61.1%	60.3%	62.9%	2.6pt	-4.9pt
52.私は、自分自身に満足している		66.5%	76.1%	76.1%	0pt	-1.7pt
39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる		44.7%	55.6%	58.3%	2.7pt	3.7pt
40.目標を設定し、確実に行動することができる		60.7%	51.7%	55.8%	4.1pt	-17.0pt
53.自分で計画を立てて活動することができる		58.3%	51.1%	55.2%	4.1pt	-5.0pt
37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む		61.7%	-	-	-	-
47.忍耐強く物事に取り組むことができる		70.4%	62.8%	65.6%	2.8pt	-11.0pt

【協働性に関わる自己認識】		65.5%	64.4%	66.3%	1.9pt	-3.2pt
	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	67.1%	76.7%	76.7%	0pt	-0.6pt
	42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	88.3%	91.7%	85.9%	-5.8pt	-7.2pt
	49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	84.0%	87.2%	86.5%	-0.7pt	-2.6pt
	50.友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	52.4%	63.9%	67.5%	3.6pt	-2.0pt
	44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	48.1%	-	-	-	-
【探究性に関わる自己認識】		62.6%	63.9%	66.9%	3.0pt	-2.3pt
	38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	59.6%	59.8%	60.7%	0.9pt	-8.5pt
	61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	61.7%	59.4%	61.3%	1.9pt	-6.3pt
	67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	64.1%	63.9%	71.8%	7.9pt	20.7pt
	45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	67.5%	66.1%	66.9%	0.8pt	-13.7pt
	46.勉強したものを実際に応用してみる	63.1%	71.1%	66.9%	-4.2pt	-15.3pt
	41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	51.5%	55.6%	56.4%	0.8pt	-10.9pt
	54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	39.3%	28.9%	31.9%	3.0pt	-16.7pt
	48.自分を客観的に理解することができる	67.5%	67.2%	62.6%	-4.6pt	-18.1pt
【社会性に関わる自己認識】		62.6%	66.1%	68.1%	2.0pt	-7.4pt
	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	55.3%	54.4%	57.2%	2.8pt	-4.7pt
	56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	35.0%	24.4%	36.2%	11.8pt	-7.4pt
	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	52.4%	53.9%	57.1%	3.2pt	-2.6pt
	57.私が関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	64.6%	61.7%	64.4%	2.7pt	-2.0pt
	62.地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	34.5%	35.0%	36.8%	1.8pt	-12.6pt
	55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	58.3%	65.6%	66.3%	0.7pt	-3.6pt
	59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	77.7%	72.2%	73.0%	0.8pt	-8.9pt
	64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	63.6%	-	-	-	-
	63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	69.4%	77.8%	74.8%	-3.0pt	1.1pt
	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	37.9%	34.4%	35.0%	0.6pt	-8.4pt
	68.自分の将来について明るい希望を持っている	44.7%	47.8%	54.0%	6.2pt	-1.9pt
【主体性に関わる行動】		69.9%	71.1%	74.8%	3.7pt	2.9pt
	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	66.3%	61.7%	70.2%	8.5pt	2.2pt
	74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	78.6%	71.7%	81.6%	9.9pt	4.6pt
【協働性に関わる行動】		53.9%	51.7%	58.9%	7.2pt	-0.1pt
	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	61.2%	57.8%	63.5%	5.7pt	-7.8pt
	73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	58.7%	58.3%	66.9%	8.6pt	-3.6pt
【探究性に関わる行動】		63.6%	57.2%	60.1%	2.9pt	-11.9pt
	75.授業の内容について、「なぜそうなのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	60.9%	56.4%	50.9%	-5.5pt	-14.4pt
	76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	64.6%	58.3%	53.4%	-4.9pt	-13.4pt
【社会性に関わる行動】		57.3%	54.4%	48.5%	-5.9pt	-15.3pt
	69.いま住んでいる地域の行事に参加した	47.4%	29.7%	39.9%	10.2pt	6.7pt
	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	44.7%	36.7%	39.3%	2.6pt	3.2pt
	77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	33.5%	22.8%	40.5%	17.7pt	16.9pt
【学習・その他】		64.1%	-	-	-	-
	90.この学校を中学生におすすめできる	40.7%	57.8%	70.6%	12.8pt	2.9pt
	78.国際社会の課題解決に貢献したい	57.3%	57.8%	70.6%	12.8pt	-8.2pt
	79.まだ世の中になく新しい技術やサービスを生み出してみたい	38.8%	-	-	-	-
	80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	35.9%	-	-	-	-
【主体性に関わるウェルビーイング】		30.6%	-	-	-	-
	81.今の生活全般の満足度	50.6%	61.5%	62.8%	1.3pt	0.2pt
	82.普段のあなたの幸福度	49.5%	65.0%	66.3%	1.3pt	-2.3pt
	83.現在の日常生活に不安や心配事がない	49.0%	68.3%	66.9%	-1.4pt	-2.6pt
【協働性に関わるウェルビーイング】		53.4%	51.1%	55.2%	4.1pt	5.3pt
	66.この学校に入ってよかったと思う	78.6%	78.3%	78.7%	0.4pt	-5.2pt
	84.学校の一員だと感じている	75.2%	77.8%	79.1%	1.3pt	-7.5pt
	85.大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	82.5%	83.3%	83.4%	0.1pt	-2.7pt
【探究性に関わるウェルビーイング】		78.2%	73.9%	73.6%	-0.3pt	-5.3pt
	68.自分の将来について明るい希望を持っている	74.8%	74.1%	74.0%	-0.1pt	-0.4pt
	86.自分の将来についての見通し（将来こういふ風でありたい）を持っている	69.9%	71.1%	74.8%	3.7pt	2.9pt
	87.自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	75.7%	79.4%	74.8%	-4.6pt	-2.0pt
【社会性に関わるウェルビーイング】		78.6%	71.7%	72.4%	0.7pt	-2.1pt
	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	52.9%	49.7%	54.1%	4.4pt	-3.8pt
	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	64.6%	61.7%	64.4%	2.7pt	-2.0pt
	88.この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	44.7%	47.8%	54.0%	6.2pt	-1.9pt
	89.日本の将来は明るいと思う	55.3%	51.7%	51.5%	-0.2pt	-16.9pt

■参考資料（教員・地域アンケート結果）

アンケート結果	教員・地域		生徒回答	比較		全国平均
	2023年度	2024年度	2024年度	前年度	生徒	2024年度
	46人	33人	163人	-	-	7125人
教職員・関係者向け質問項目	-	-	-	-	-	-
【主体性に関わる学習環境づくり】	83.0%	88.5%	84.9%	5.5pt	3.6pt	84.2%
5.失敗を恐れずに挑戦することができている	73.9%	81.8%	74.8%	7.9pt	7.0pt	69.2%
6.目標や当事者意識を持って挑戦することができている	82.6%	84.8%	0%	2.2pt	-	82.1%
13.挑戦する人に対して、応援することができている	89.1%	90.9%	0%	1.8pt	-	90.6%
14.誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている	87.0%	90.9%	89.0%	3.9pt	1.9pt	86.8%
22.子どもの自己決定を尊重できている	82.6%	93.9%	90.8%	11.3pt	3.1pt	92.1%
【協働性に関わる学習環境づくり】	77.0%	78.2%	71.6%	1.2pt	6.6pt	73.5%
7.自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている	56.5%	72.7%	63.2%	16.2pt	9.5pt	55.6%
8.人と違うこと、異なった意見を尊重している	82.6%	78.8%	74.8%	-3.8pt	4.0pt	80.4%
9.ありのままの個人を尊重している	89.1%	90.9%	0%	1.8pt	-	86.3%
15.自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している	87.0%	75.8%	0%	-11.2pt	-	73.2%
16.立場や役割を超えて協働している	69.6%	72.7%	76.7%	3.1pt	-4.0pt	72.2%
【探究性に関わる学習環境づくり】	63.0%	67.3%	77.9%	4.3pt	-10.6pt	67.0%
10.本音を気兼ねなく発言できる	54.3%	66.7%	76.7%	12.4pt	-10.0pt	62.2%
11.地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる	60.9%	54.5%	78.5%	-6.4pt	-24.0pt	57.9%
17.生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができている	71.7%	81.8%	89.0%	10.1pt	-7.2pt	83.6%
18.お互いに問いかけあう機会がある	54.3%	57.6%	0%	3.3pt	-	70.3%
【社会性に関わる学習環境づくり】	82.1%	78.8%	76.3%	-3.3pt	2.5pt	68.8%
12.自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている	73.9%	75.8%	67.5%	1.9pt	8.3pt	61.0%
19.生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	82.6%	72.7%	79.8%	-9.9pt	-7.1pt	78.5%
20.地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている	82.6%	81.8%	81.6%	-0.8pt	0.2pt	62.3%
21.地域で生徒を育てるという意識を持っている	89.1%	84.8%	0%	-4.3pt	-	73.4%
【その他】	58.8%	64.5%	66.9%	5.7pt	-2.4pt	67.0%
23.今の生活全般の満足度	41.3%	57.6%	66.3%	16.3pt	-8.7pt	56.9%
24.普段のあなたの幸福度	50.0%	63.6%	66.9%	13.6pt	-3.3pt	61.4%
25.この学校を中学生におすすめできる	76.1%	78.8%	70.6%	2.7pt	8.2pt	84.4%
26.この学校に関わってよかったと思う	84.8%	84.8%	79.1%	0pt	5.7pt	90.2%
27.この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	63.0%	69.7%	51.5%	6.7pt	18.2pt	70.7%
28.（地域・社会との協働を通して）授業の質の向上につながっている（教職員のみ）	57.1%	45.0%	-	-12.1pt	-	67.0%
29.（地域・社会との協働を通して）自身の資質・能力の向上につながっている（教職員のみ）	71.4%	80.0%	-	8.6pt	-	73.0%
30.（地域・社会との協働を通して）学習意欲が高まった生徒がいる（教職員のみ）	57.1%	65.0%	-	7.9pt	-	72.6%
31.（地域・社会との協働を通して）業務負担感の軽減につながっている（教職員のみ）	14.3%	15.0%	-	0.7pt	-	17.3%

(4) まとめ... 3 つのアンケート調査結果を以下に整理した。

■ アンケート結果からみた本校の強みと課題

	強み	課題
(1) 目標シート	○生徒はまつナビが地域活性化につながっていることを自覚している。 ○生徒はコミュニケーション力が高いと考えている。 ○商業科は、情報理解・収集力はある程度高い	○生徒がまつナビを通じて、キャリア形成力が高まっている実感がない。 ○論理的思考力が低い。 ○商業科は地域科学科と比べて、ループリックの数値は全ての項目で低い。
(2) 本校独自のアンケート	○全体的に学年が上がるごとに数値は上がっている傾向が見られる。 ○自分のふるさとや松浦のことが好きな生徒は、この3年間でも高い数値(3.0を超える)となっている ○高校卒業後に就職する商業科の生徒は、地元就職したい気持ちが地域科学科よりも高い。	○高校卒業後に進学する生徒のうち、大学卒業後にUターンして就職したい生徒は一貫して減少している。 ○自分は地域の方にインタビュー等をする力が弱いと考える生徒が多い。 ○商業科は地域科学科と比べて昨年と同様に低い。
(3) 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングアンケート	○地域に対して肯定的な生徒が多い。 ○昨年度課題だったボランティア活動についてはかなりポイントが上がっている。 ○プレゼンテーション力は向上している。 ○まつナビを通して本校の魅力化は向上している。	○探究をとおして身に付けた基礎知識をデータ分析等までに応用させる力が弱い。 ○論理的思考力が十分に身に付いていない。 ○地域での活動は多いが、チームでの協働が苦手。

今年度の成果と課題は、以下のビジュアル資料のとおりである。

80

第5章 新時代に対応した普通科改革の継続に向けて

文科省の研究指定終了後も、これまで「活性化ミーティング」で培ってきた知見を基盤に、高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）との連携を含めて教育活動の充実を図っていく。

（１）校訓から見た活動目標設定

１）「自己開拓」に全力を注ごう

キャリア形成力の向上

大学、短大、専門学校及び病院や保育所といった地域事業所との連携を含めた進路実現のための豊富な知識・経験の醸成。「自分ごと」とした３年間の進路探究を進める。

自己有用感を高める

外部コンテスト等への積極的なチャレンジ等。自分の興味関心を発端とする探究活動とその発表会に向けた取り組みの充実。また、これを実現するための教員の伴走する力のスキルアップを図る。

２）正しい人間関係をきずいていこう

地域や大学、県内外の生徒間交流といった「ヨコのつながり」

学校外に積極的に出て、コミュニケーション力の向上を図る。

同級生だけでなく、下級生・上級生といった「タテのつながり」

探究や研究活動の継続。１年生は２年生の発表会へ参加し、テーマ設定の一助とする。

３）よき市民性を身につけよう

新しい学校設定科目「松浦学」と「まつナビ・プロジェクト」の活動の充実と相互補完的な学びの計画。教員は教科間の地域素材を利活用した教材研究を進める。

地域行事等の積極的な参加

ふるさとの未来について協議する「地域版未来会議」への参加や、地元の行事（松浦水軍まつりや松浦こども博）への企画段階からの参画を促進する。

(2) 本事業終了後の活動計画

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発 ○内容 ■育成したい力	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	○文科学委託事業「高等学校DX加速化推進事業」の実施計画と連携した活動を進めていくことの共通理解を図る。 ○活動目標等の共通事項を確認するための職員研修会の実施 ○資質・能力を身に付けさせるためループリックやポートフォリオ活用に関する生徒への説明・運用開始(全体) ■メタ認知の育成 ○アセスメントテスト実施(1年) ■メタ認知の育成 ○学校設定科目「松浦学」 ■地域について理解を深める ○進路別探究活動(3年)(~8月) ○班別探究活動の本格化(2年) ■課題分析・解決能力の育成 ○中学校の活動の振り返り(1年)	○ドローン等の専門家による活動支援 ○ループリック・ポートフォリオの活用 →長崎大学の専門家とのループリックの評価規準及び活用に関する確認 ○外部機関のアセスメント ○職員研修(ループリック、活動目標等) →大学など外部機関からの指導・助言 ○アセスメントテスト →生徒の現状把握 ○学校設定科目「松浦学」 →各教科での実施報告、ポートフォリオでの振り返り ○3・2年探究活動 →「まつうら高校応援団」等を通じて大学及び地域人材等に支援依頼
5月	○第1回探究スキル(課題発見)育成講座(産業能率大)(1年) ■探究スキル ○地域の魅力について知るための松浦未来講演会の実施(1年) ■探究スキル、ふるさと貢献力	○探究スキル育成講座 →大学との連携、外部講師招聘 ○松浦未来講演会 →まつうら高校応援団との連携
6月	○第1回学校運営協議会 ○中間発表準備(2年) ■課題分析・解決能力、プレゼン力 ○『まつうら仕事図鑑』に必要なスキルアップ講座(1年) ■ふるさと貢献力、必要なスキル育成 ○中間発表会(2年) ■資料作成力、プレゼン力	○学校運営協議会 →学校経営方針、教育活動。計画の指導・助言、支援の在り方検討 ○班別課題研究・中間発表会 →大学教員・大学生・地域等の人材によるフィードバック ○仕事図鑑 →地域の人材活用

7月	○「地域高校」との連携・協働研究ミーティング（全体） ○進路別探究活動のまとめ（3年） ■課題分析・解決能力・プレゼン力 ○フィールドワーク（2年）及び仕事図鑑インタビュー（1年） ■探究スキル、ふるさと貢献力	○「地域高校」との連携 →外部機関及び連携高校とのミーティング内容の調整 ○フィールドワーク・仕事図鑑インタビューの支援 →コンソーシアム等との連携
8月	○個人・班別の研究のとりまとめ	○必要に応じて外部諸事業所と連携
9月	○進路別探究活動のまとめ（3年） ○フィールドワークの成果を生かした班別探究の継続（2年） ■課題分析・解決能力 ○仕事図鑑まとめ（1年） ■資料作成力、プレゼン力	○大学生による壁打ち、探究活動の進捗状況を確認する（2年） ○まつうら高校応援団等の支援を受けながら、仕事図鑑作成委員（生徒）による本格的な編集開始（1年）
10月	○第2回学校運営協議会 ○課題探究発表会準備（2年） ■課題分析・解決力・プレゼン力 ○研究テーマ設定及び探究構想（1年） ■課題発見力、自ら学び行動する力 ○第2回探究スキル(主体的学習者)育成講座（産業能率大）（1年） ○課題探究発表会（2年）・見学（1年） ■課題分析・解決能力、プレゼン力 ○外部コンテストへの応募準備（2年） ■資料作成力 ○ふるさと恩返し探究（3年） ■ふるさと貢献力	○学校運営協議会 →教育活動の中間報告と修正・改善 ○プレ構想発表会（1年） →大学生・地域人材からのフィードバック ○人生の達人セミナー ○課題探究発表会 →長崎大生や長崎県立大学生および外部審査委員への評価方法の説明 ○大学生による壁打ち、探究活動の進捗状況を確認する（2年） ○発表資料のブラッシュアップ（2年） ○「恩返し探究」のテーマ設定 →地域へミニフィールドワーク、インタビュー調査等を実施
11月	○東京フィールドワーク準備（2年） ○研究活動班の始動（1年）	○東京フィールドワーク →訪問先との調整
12月	○東京フィールドワーク（2年） ○各研究活動班でのテーマ設定（1年） ■課題分析力	○東京フィールドワーク →報告書の作成 ○必要に応じて外部諸事業所と連携
1月	○1年間・3年間の取組を振り返るアンケートの実施・ポートフォリオ・報告書の作成（全学年） ■メタ認知力 ○インターンシップ準備（～3月）（2年）	○生徒アンケート等 →結果の分析及び管理機関との共有 ○インターンシップ準備 →各事業所との調整

1 月	○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク(1年) ■探究スキル、ふるさと貢献力 ○マイプロジェクトアワード等の学部コンテスト・立命館宇治高校での探究活動発表(2年代表生徒)	○班別構想発表会準備・フィールドワーク→各事業所との連携
2 月	○第3回学校運営協議会 ○インターンシップ準備(2年) ○班別研究構想発表会(1年)	○学校運営協議会 →年間の活動報告、意見交換、次年度の学校経営方針・活動計画等の検討 ○班別研究構想発表会→大学等との連携
3 月	○インターンシップ(2年) ○フィールドワーク(1年)	○インターンシップ・フィールドワーク→各事業所との連携

(3) 次年度以降の主な取組

1) DX ハイスクール事業とまつナビをつなげる：まつナビ×DX

デジタルスキルをもった地域人財の育成・ドローン(空撮、農薬散布、構造物点検、災害時の活用など)

水中ドローン(養殖場点検、磯焼けの状況確認など)、デジタルサイネージ+AI カメラ(人流分析など)、3Dプリンタ、レーザー加工機の導入

2) コミュニティ・スクールの導入

5年間で構築したコンソーシアムの継続

より地域との連携を深めるために専門部会(学校がやりたいことをお願いする場=佐賀県立鹿島高校を参考)を設置予定

- ・地域連携(まつナビ・DX)部会
- ・魅力化評価・広報部会
- ・キャリア支援部会

3) コーディネーターなどの外部人材の採用=教員の負担軽減にもつながる

現在在籍している2名の継続雇用

- ・元中学校長：松浦市からの補助金で雇用
- ・企業人：総務省「地域力創造アドバイザー」事業を活用して雇用(全て国の特別交付金)

「地域おこし協力隊」を2名募集

- ・「松高学び場」(R5年度から始めた公営塾=現状では自学のみ)のコーディネーター兼探究活動・広報での学校支援として(職員室に勤務)

ベネッセコーポレーションとの連携

- ・「松高学び場」へのサービス提供

(４) 本校における今後の具体的な取組について

生徒の多様性が広がる中で「個別最適な学び」の重要性が高まり、「生徒を主語にした」学校づくりが求められる中で、生徒や地域の状況に応じた特色ある教育課程を編成し、教育活動を展開していくことは、普通科においても必須である。そのためにも、学校のミッション・ポリシー、魅力や特色を改めて校内外のステークホルダーとともに検討し、教育活動に対する新たな意味付け（ブランディング）を行って教育活動の改善を図り、「一斉的・画一的な学び」という現在の普通科にもたれている印象を打破していくことが、「普通科改革」の本質であろう。

そして、そこでカギになるのが、学校を社会に開き、新たな取り組みを生み出そうとする教員マインドセットやスキルアップである。

本校では、これまでの研究指定事業の中で蓄積した知見を基盤に、以下のことに留意しながら、次年度以降の取組を進めていきたい。

既存のコンソーシアムを基盤に学校運営協議会制度を導入し、地域との連携をより一層強化するとともに、学校の教育目標（とりわけグラデュエーションポリシーや各教科で育成したい資質・能力）を再設定し（＝自校のリブランディング）、学びの多様性を担保する。

学校外との連携（地域、大学など）を一層強化し、探究活動の充実と生徒のキャリア支援を図る。

新たな学びの場の創出にチャレンジしようとする教員のマインドシフト及び社会変化に対応できるスキルを育成する。そのためにも、多様な外部人材による研修を充実させる。

現在研究指定事業の予算で雇用しているコーディネーター等を配置する。

松浦市の就学支援金及び総務省「地域力創造アドバイザー」事業を活用して配置予定新たに松浦高校の魅力化・特色化を推進する「地域おこし協力隊」を募集する予定
中学校との連携を深め、特に授業互観などを通して授業改善に取り組んでいく。

また、改革を継続するには、現状の見える化を担保し、教員の指導・支援の実態や生徒の学びの姿を客観的に把握し、改革の妥当性を「評価」することが重要である。そのためにも、現在導入している三菱UFJリサーチ＆コンサルティングの「高校魅力化評価システム」などを活用して、評価データを教員間で共有し、エビデンスに基づいて持続可能な改革の体制を築いていくことが重要である。

參考資料

の運営指導委員会には大学教員、県企画部幹部、地域の有識者など6名が、地域連携のよりよい在り方、探究活動の在り方、「まつナビ・プロジェクト」の持続可能性など、普通科改革上の課題を多方面から検討し、助言と支援の機会となっている。

また、コンソーシアム会議は、松浦市長、市議会議長、県教育委員会、同窓会、PTA、市教委、市小中学校校長会、商工会議所、大学、企業など計12名で構成されている。生徒の探究活動を、より深みのある活動にするための方策、そのための中高・高大・地域との連携の具体的な活動計画、探究性を高めるために授業研究の在り方などについて検討している。

さらに2023年度から、「まつうら高校応援団」を組織し、現在松浦市内の約50あまりの事業所が登録している。「まつナビ・プロジェクト」における研究活動の支援に加えて、企業説明会の開催や「仕事図鑑」の取材受け入れ、インターンシップの実施など、全面的に同校の教育活動を支援している。

地域コーディネーターは2名おり、一人は

地元の元中学校校長で人脈が広く、特に中学校との連携を担ってくれている。また、もう一人は探究を進める生徒に寄り添った活動の支援をしてきている。

『キャリア形成へつながる 地域課題探究学習』

まつナビ・プロジェクトの流れを見ていこう。1年生は探究の基礎的な知識や技術を身につける。はじめに、中学校でのふるさとについて学んできたことを、クラスで伝える活動をする。高校生にとってはプレゼンテーションで他者に伝える学びとなり、教員にとっては小中学校でどのようなふるさと学習が行われてきたかを知る機会となる。また、「松浦未来発見講座」では、「まつうら高校応援団」による各企業の説明、企業と同市との関わりや思いを聞いて質疑応答をする。今年度は、9事業所が参加し、生徒は多くの事業所の話を聞くことができ、職業について知るとともに、働くことの意味や、地域企業の地域への熱い思いについて見識を深めた。

次にグループで松浦市の企業にインタビュ

ーを行い、仕事の魅力や働く意味についてまとめた「MATSURA仕事図鑑」を作成する。

事前に目的などの目線合わせを行うワークショップや、地元のプロを招いた写真の撮り方講座、新聞記者に記事の書き方講座を行ってもらう。

7月下旬の取材当日も引率教員は数カ所を回るので取材の時間にすべて生徒に付き添っているわけではなく、生徒の主体性やコミュニケーション力が試されるフィールドワークとなっている。

冊子作成のコンセプトとして、地元の中学生をターゲットとしており、「MATSURA仕事図鑑」として冊子にまとめ、市内7中学校の生徒全員に配布しており、中高を通してのキャリア教育の一助となっている。

10月からは、市役所の課ごとの仕事内容をブース形式で学び、いよいよ数時間かけて「まつナビ」で研究したい内容をブレ構想として発表する。年明けからは地域の課題解決に向けて、より具体的なテーマを設定する。

研究したいことを1分間のスピーチにまと

地域連携を軸に探究を進める長崎県立松浦高等学校を紹介する。

同校は文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、2022（令和4）年度から普通科を「地域科学科」に改編し、地域課題探究学習を推進している。地域科学科2クラス、商業科1クラス、全校生徒182名の松浦市唯一の高校である。

ここ10年の松浦市の人口減少に伴い、高校のクラス数の減少などが課題となっていた。2013年度より市による就学支援制度が始まり、その次年度には商業科を新設、2017年度より2年生が松浦市の魅力化を考え、市の職員が生徒の活動に密着して市の課題解決を目指し、松浦市に提言する地域課題探究型の授業「まつナビ」がはじまった。

さらに、2020年度からは2年生だけで行っていた「まつナビ」を、高校3年間の系統性のある探究学習とした。「まつナビ・プロジェクト」と名称もマイナーチェンジし、毎週水曜日6、7時限目に「総合的な探究の時間」（1単位）、学校設定教科「まつナビ」

（1単位）を実施している。

「地域が全面的に応援

まつナビ・プロジェクトのカリキュラム推進の校内体制としては、「活性化ミーティング」を木曜日5限目に行っている。メンバーは、校長、教頭、商業科主任、進路指導主事、各学年代表、プロジェクトリーダー、地域コーディネーターの13名である。

ここでは直近の活動の振り返り、まつナビ・プロジェクトの今後の活動予定、小中学校との交流、外部コンテストへの応募、年間計画の改善、ルーブルックやポートフォリオの活用、プロジェクトの運営上の課題や生徒の学びの深化などについてじっくりと話し合う。

もちろん、毎回全員が揃うわけではないが、回覧用の記録にわかりやすくまとめ、報告を密にすることにより、この会議から職員会議を通して全職員へと共有する仕組みがつけられている。また、今年度からは長崎大学教育学部の藤井佑介准教授が定期的にオンラインで参加し、貴重な助言をもらっている。

一方、校外の組織としては、研究指定事業

「地域に開かれた 高校」の探究活動

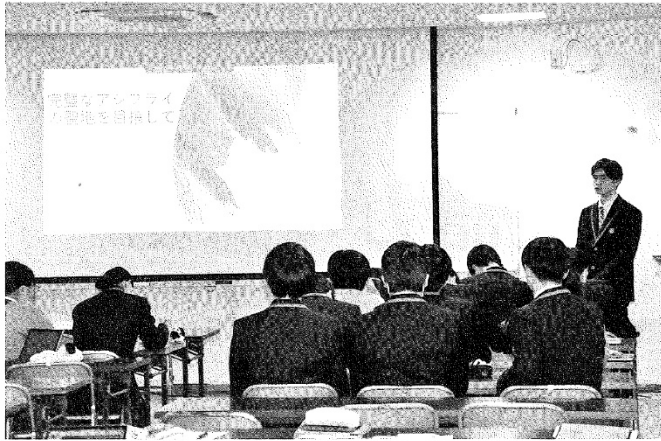
取材・文：廣瀬志保
（山梨県立高等学校教員）

「探究」を探究する

第89回

年はじめの能登半島地震などもあり、緊急性を感じグループで話し合っ、テーマをアジフライから防災に変更した。

それからは、災害時に身近なもので応急手当をする方法や、緊急時の連絡方法などを学んだ。現在は災害時に活躍すると考え、企業と協働で「かまどベンチ」の製作をしている。古本さんは「ベンチの図面までできています。情報収集が自分できるようになったこ



発表の様子

とや、班で話し合う中で意見をしっかりと伝えるようになりました。今後は自主防災組織の運営にも携わりたい」と言う。

このように、生徒の興味・関心の変化にも応じたテーマ設定も認められている。

授業担当は、学年の教員で各学年8～9名である。年度初めの教員オリエンテーションで、まつナビ・プロジェクトリーダーから3年間の計画や活動目標、各回のワークシート、指導の手引きなどを説明し、教員間での共有を図っている。実際の授業では、それらをベースに学年ごとにアレンジして利用している。毎時の指導案の細案も年間分があるが、4・5月は新転任教員もいるので細案も出すが、軌道に乗ったところで、教員の主体性を生かすためにも細案については学年団に任せようとしている。

評価は、3年間を7ステージに分け、七つの資質・能力（情報理解・収集力、プレゼンテーション力、テーマ設定力・課題発見力、コミュニケーション力、論理的思考力、キャリア形成力、ふるさと貢献力）のそれぞれに5段階の基準がつけられルーブリックで自己

評価をしている。毎回の授業で、生徒は7項目の自己評価と感想を書いて振り返りをしている。振り返りはデジタルとこの紙媒体とを併用している。

さらに、松浦高校では松浦市の就学支援金をもとに「まつナビ支援金制度」を設け、生徒の申請によって「まつナビ」の活動に必要な資金（上限3万円程度）を支給している。

プロジェクトリーダーの茶園孝一教諭は、「かつては職員室で教員の言動が後ろ向きなこともあったが、『こうしたらよくなるよ』という前向きな声が多く聞かれるようになった。こだわりとしては、地域科学科と商業科と一緒に『まつナビ・プロジェクト』をすること。科の壁をつくらずに混合にすることでそれぞれの活躍の場を創出できる。今後も生徒の興味・関心を生かし、協働体制を進めていきたい」と話す。

高校生と話す、地域との連携の中で高校生は失敗を恐れず、ポジティブ思考が培われているのが感じられる。そして、その先には自己のキャリア意識と、地域への貢献意欲の高まりが感じられた。

めて発表し、テーマが似ている生徒がグループをつくって、10〜12のプロジェクトができる。そして、グループごとに話し合いを重ね、グループでの研究テーマを設定し、2年生に向けて本格的に構想を練り始める。

2年生の1学期は班別研究活動を継続させ、各班で計画を立ててフィールドワークを行い、6月に中間発表会、10月下旬に講師や関係者を招いて市文化会館での発表会を行う。その後、これまでの活動を個人でまとめた報告書を作成し、自分のキャリア形成に結びつく進路別探究活動をはじめめる。

3年生では、地域科学科は、自らの進路希望に応じた課題研究や「ふるさと恩返し探究」という地域からの要望に応えた活動に取り組む、商業科は「サイバーセキュリティボランティア」でSNSの使い方についてなど地元の小中学校で授業を行う。このように探究活動を生徒のニーズや状況に応じて、「複線形」で行うプログラムとしている。

『実社会と関わる探究』

活動について高校生に聞いてみた。2年生



仕事図鑑取材の様子

の……さんは、仕事図鑑の取材が印象深く、電車で40分かけて映像制作をする事業所の取材をした。経営者の川浪勇太さんには、質問に対して丁寧に教えていただき、質問以外にも仕事の大変さややりがいについて聞くことができた。

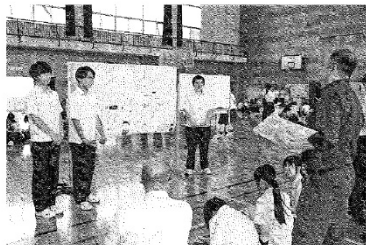
その経験から2年生になると、福祉に興味を持ち、聴覚に障がいがある方と交流できな

いかと市役所を訪問した。

紹介してもらった福祉施設の担当者と何度も電話でやり取りをして、何か地域でできることはないかと考え、手話を学び、市内の小中学校で手話の授業を計画している。対象の学年は小学校2・3年生と考えたが、4年生で福祉の学習を知り、こちらにターゲットが変わった。指文字を使った手話のワークショップで歌や簡単な文章、食べ物のなど名前を伝え合えるよう計画している。

……さんは「福祉施設の担当者からの、『ジェスチャーでも伝えられることがある。どうかして伝えたいという気持ちが大切』という言葉が印象に残り、小学生にもこの言葉を伝えたいです。何事にも前向きに取り組めるようになり、行動力がつきました」と話す。

2年生の……さんは「松浦市といえばアジフライ」なので、アジフライの食べられる店のアプリを作りたいと集まったグループで活動を始めた。アプリ制作について聞いたと、すでに災害アプリを普及させている市の防災課を訪問した。話を聞いているうちに、防災の重要性を再確認し、興味も湧いた。



中間報告会での
質疑応答の様子



「MATSUURA
仕事図鑑」

て、フィールドワークなどを通じてその解決に向けて取り組む。そして課題解決の過程で2度の中間報告会を設定し、教員・他学年の生徒・保護者や地域の方々・大学の先生や学生などに質疑応答をしてもらい、研究内容をブラッシュアップする。さらに11月の最終報告会で、松浦市長をはじめとして多くの関係者の前で発表を行う。

「プレまつナビ」からここまで1年間の過程が従来の「まつナビ」だった。ここを1年半とより時間をかけて取り組むようにした。その中で最も多くの時間を割いているのが、課題設定である。課題についてこの2年間、自分の興味・関心や自分の進路にこだわること、また自分たちが調査したり、実践したりすることができるような課題にすることを指導している。最終報告会以降は、東京への修学旅行での企業・大学訪問の準備、

全員参加のインターンシップ準備に充てており、自らのキャリアについて再考する時間としている。

3年次には、「まつナビ」の取り組みを深化させたり、自らのキャリアプランに合わせた課題研究に改めて取り組んだり、生徒の個別のニーズに応じて柔軟に対応できるように計画しており、「ポストまつナビ」と呼んでいる。

この3年間のプログラムを学校設定科目とし、各学年の総合的な探究の時間と合わせて週2時間を探究の時間としている。

また1年次前半には「MATSUURA 仕事図鑑」の作成にも取り組んでいる。地域情報のインプットだけでなく、働く意味についてインタビューを行うなど、キャリア形成にもつなげている。

2年間の成果

2年間の取り組みの成果の一つ

として、「まつナビ」における研究課題の多様化がある。

以前は、松浦市の人口減少に対して「SNSによる情報発信」や「イベント開催」などのテーマを設定し、構想だけという発表が多かった。しかし、キャリア形成の視点で、自らの興味・関心から課題設定を行うことに注力したことから、研究課題に多様性が出てきている。

例えば現2年生の課題には「障害者との共生」「高校生による自主防災組織の結成」「松浦特産アジの廃棄されるウロコの活用」というものがある。地域社会が抱えるさまざまな課題を取り上げつつ、自らの興味・関心や将来のキャリア実現にテーマを結びつけられるようになってきた。

次回は、地域との連携体制や今後の展望について紹介する。

高校現場最前線

No.238

【長崎県立松浦高等学校】…①

校長 舟越 裕

地域課題を生徒の興味関心や進路につなげる

普通科改革の取り組み①

「地域科学科」発足

松浦市唯一の高校である本校は、令和4年度に文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に採択され、同時に普通科を地域科学科（研究指定事業における「地域社会科学」）に改編して、新しいスタートを切った。

現在は地域科学科2学級、商業科1学級である。少子化により入学者が減少している中、新学科の開設による混乱、私立高校の就学支援制度の拡充、隣接する県の入試改革による生徒流出などの影響を受け、令和4年度の入学者は55人という過去最低人数でのスタートであった。

今回より、本校における普通科改革の取り組みについて紹介する。

松浦市による支援

松浦市内には、かつて複数の高校が設置されていたが、統廃合により平成23年度に1市1高となり、高校存続に危機感を抱いた市による就学支援制度が始まった。以前は、通学や下宿費用の補助、模擬試験や検定料の半額補助が大半であったが、2年前から本校の魅力・特色化のためにも充てることができるようになり、現在は年間約1400万円の補助金をいただいている。また、市役所や地元企業などからは、探究活動をはじめとしてさまざまな教育活動に人的支援をいただき、生徒の学びの

充実につながっている。

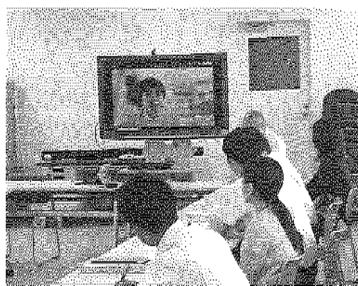
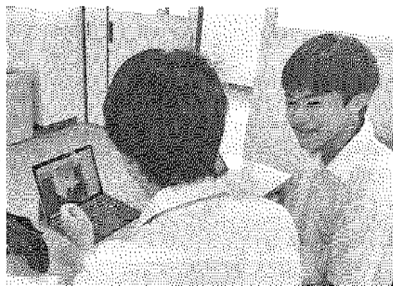
まつナビプロジェクト

本校が普通科改革に取り組むようになった背景には、①コンソーシアムを中心とした地域連携体制の整備、②地域課題探究学習「まつナビ」（2年次）での課題探究学習の充実という2点がある。

「まつナビ・プロジェクト」とは、地域科学科の教育課程上の特色であり、従来1年間の活動であった「まつナビ」を、3年間を通した活動としたものである。

1年次は、▽市役所や地元企業などからの説明を聞き、地域の情報収集に取り組む▽大学などの外部講師による講義を通じて探究のスキルを身に付ける▽生徒の興味・関心に基づいて課題設定を行う——という活動であり、「プレまつナビ」と呼んでいる。

2年次には、生徒が課題につい



長崎大学との
オンライン協議

長崎大学や長崎県立大学からは、運営指導委員やコンソーシアムのメンバーである各大学の先生方から指導・助言を受けている。さらに長崎大学からは、各教科における地域素材を活用した授業づくりに伴走してもらっている。この授業実践の蓄積を活用し、令和7年度からは新たに学校設定科目「松浦学」を設置することにした。

また、ルーブリックや探究活動の改善などでも、個別に支援を受けている。長崎県立大学からは、ゼミ単位で「まつナビ」の発表会に参加してもらっており、今年度からは各班の発表内容に対する壁打ちを行ってもらっている。

普通科改革の展望

普通科改革では、特色・魅力あるカリキュラムおよび教育方法の開発、関係機関などとの連携協力体制の整備、そして連携協力を担

うコーディネーターの配置による調査研究が求められている。

この先に目指すものは、普通科でも特色ある学びを展開し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を身に付けることである。そのためには、▽学校や生徒の状況に応じて学びの多様性を担保する（授業改善や総合的な探究の時間・学校設定科目などで、教育課程の研究を進める）▽学校と外部との連携を強化して、生徒のキャリア意識を醸成するための支援を行う▽学びの充実のために、社会の変化に対応できる教員のスキル・マインドの養成を図る——といったことが重要だと考えている。

教員の自走、学校の持続可能性

地域連携による学校外での学びの充実、長い目で見ると、教員の働き方改革にもつながる。しかし、「まつナビ」のような探究活

動の充実には、やはり教員が探究について学び、生徒に伴走するスキルなどを身に付ける必要がある。本校では「まつナビ・プロジェクト活性化チーム」を組織している。各プログラムの企画・運営・改善、年間計画やルーブリックの見直しなどをチームが担い、コーディネーターと試行錯誤しながら活動内容の改善を進めるなど、教員が自走する環境は整ってきた。

本校における普通科改革の文料省研究指定は、今年度が最終である。今後は「DXハイスクール事業」という新しい展開も加わることになり、その中で教育活動の持続可能性と地域連携をより一層高める必要がある。そのため、次年度からは学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールとして、これまでのノウハウを生かしつつ、新しい学校づくりに再び乗り出すことにしている。

高校現場最前線

No.239

【長崎県立松浦高等学校】…①

校長 舟越 裕

学びを支える地域との連携体制

普通科改革の取り組み下

今回は、地域科学科での取り組み、特にその中心となる「まつナビ・プロジェクト」について説明した。今回は、その学びを支えている地域との連携体制や、本校の今後の展望について紹介する。

まつナビ高校応援団

令和4年7月、本校と地域の関係者によるコンソーシアムで、「まつナビ」の取り組みの中で、生徒が何を目標に、何をやるうとしていくのか、生徒の思いが見えてこない。もともと直接、生徒と話ができる環境が欲しい」という意見が出された。コンソーシアムの役割である、生徒の興味・関心と、地域の課題やフィールドとのマッチングを、もともと円滑にできないかと

いう意見であった。

また、学校と地域とのマッチングの現場では、多くの学校では生徒が学校外の事業所などを訪問する際に、教員が事前連絡を入れた後に、生徒が連絡するという流れを取っていた。ただ、この業務は教員にとって大きな負担である。

この二つの課題を解消するため、令和5年3月に「まつナビ高校応援団」を発足した。発足に当たって、本校の学びにこれまで関わっていた市内外の諸事業所に、次の3点について協力依頼をかけた。

▽「まつナビ」における地域課題解決に向けた支援▽企業による地元魅力説明会▽職場見学会・インターンシップの実施

その上で、二つの課題をクリア

するために、事前に参加事業所から、学校に提供できるリソースと担当者名・メールアドレスをいただき、生徒が必要に応じて直接連絡を入れる方法にした。現在は「MATSUBURA 仕事図鑑」の取材先としても支援いただき、今年度採択された「DXハイスクール事業」でも、支援を依頼している。

まつナビ支援金

前回、松浦市役所による修学支援制度について紹介したが、その一部から、生徒の研究活動に必要な資金(事業所までの交通費、商品開発費など)を「まつナビ支援金」という形で上限3万円程度、提供している。生徒には、事前に申請書を提出させて審査し、資金活用後は報告書を提出させるなど、責任を持って活用するよう指導している。

高大連携

松浦高生が県北の探求活動発表

松浦市志佐町の県立松浦高（舟越裕校長、178人）は、地域探求の学習に取り組む県北地区の県立5校と探求フォーラムを初めて開いた。生徒らが成果を互いに発表し、グループで意見を出し合う「対話」の時間で交流を深めた。

同校は市と協働でまちの課題解決に取り組む「まつナビ」を2017年度から実施している。22年度からは「普通科」を「地域科学科」に改編し、文部科学省の「新時代に対応した高校改革推進事業」の県内唯一の指定校になっている。

今回のフォーラムは同事業の柱の一つ、「地域に根差した高校」のネットワーク構築を図るのが狙い。22日同校のほか、佐世保市の佐世保南高、佐世保北高、佐世保西高、宇久高、平戸市

佐世保でフォーラム



「新しい教科」をテーマにアイデアを出し合う生徒たち
＝佐世保市、アルカスSASEBO

から猶興館高の1、2年生が参加。地域創造学部がある県立天佐世保校の学生や各校の教諭らも加わり、計約100人が集い、佐世保市三浦町のアルカスSASEBOで開いた。

生徒が探求の成果をポスターにまとめて発表したセッションでは「ネコと人間の共生」、「アジのうろこの活用方法」など多彩な16テーマが各ブースに並んだ。大人も含めた参加者が15グループに分かれ「対話」。新しい教科をテーマにアイデアを出し合った。地域探求の意義を再確認してもらおうと、ベネッセ教育総合研究所の山下真司主席研究員による講話もあった。

松浦高2年の さん(17)は「探求活動で、自分たちがアイデアだけで終わっていたテーマを他校が取り組んでいて、いいなと思った」、佐世保北高2年の さん(17)は「探求活動が社会貢献につながっていくことを学べた。他校との交流がすごく楽しい時間だった」と話した。(則行優志)

高校の探究学習、まち挙げ支援

地域課題の解決、提言から実践へ

令和4年度から、高校の「普通教育を主とする学科」で、普通科以外の学科を置くようになった。その一つが、地域社会の将来を担う人を育てる学科だ。長崎県立松浦高校は地元自治体や企業などの支援を受けて地域課題の探究学習に取り組む「地域科学科」を置いた最初のグループの高校だ。人口約2万人の松浦市に



まつナビで地域の人にインタビューする生徒たち＝同校提供

ある同校は、入学者の減少で一度は学校存続の危機に直面した。そこで生徒の進路に対応するため、平成26年度に商業科を設置。29年には市の協力を受け、地元をフィールドにした探究学習の「まつナビ」を2年生で始めた。その後「まつナビ・プロジェクト」として3年間のプログラムに体系化した。

まつナビ・プロジェクトは1年生で地元企業の人や市職員などの講演を聞き、生徒が課題設定した後、2年生でフィールドワークを取り組む活動だ。学習を支えるのが市や商工会議所、企業や長崎大学のメンバーからなるコンソーシアム。フィールドワークを生徒からの電話一本で受け入れてくれる「まつナビ・プロジェクト」は、市内に50カ所を数える。

プロジェクトのリーダー、茶園孝一教諭は「まつナビを始めるまでは提言止まりだった生徒たちの活動が、提言を実現させるための実践になってきた」と変化を口にする。

あるグループは地元の鉄道のフラットホームに、高齢者や障害のある人のために手すりを設置することを提案。生徒たちが自らが国土交通省に掛け合って実現させた。設置費用を負担したのはコンソーシアムの企業だった。別のグループは、松浦高校が指定避難所になっていることから、災害時にかまどになる防災ベンチを設置した。生徒の活動は市から年間1500万円の支援を受けており、フィールドワークの交通費などに充てている。

地域科学科とまつナビ・プロジェクトを始めてから3年。当初、落ち込んでいた入学者数も改善傾向で、県内就職者も大きく増えた。舟越裕校長は、コロナ禍の影響もあり、プロジェクトの影響とは断言できないとしながらも手心を感じている。

「まつナビでは、生徒たちが自分のやりたいテーマを設定できるようになってきた。実践を通して地元に関わる経験が、やがては故郷愛につながり、人の還流へとつながってくれと信じている」



アジのうろこでハンドクリーム

松浦高2年の3人が発案

試作重ね商品化模索

松浦市の松浦地域科学科2年のさん(17)ら3人が、アジのうろこを活用したハンドクリームを発売した。市が創業予定者を支援する「市ビジネスプランコンテスト」では、そのユニークな発想が本年度新設された「アイデア部門」(高大生対象)の最優秀賞に選ばれた。商品化を目指して試作を重ねており、化粧品関連会社との連携などを模索している。

同市の「アジフライの聖地」としての認知度が全国的に高まっている中、3人はアジフライの製造過程で廃棄される部分に着目。身以外ほとんど捨てられて

いることを知り、特に「ゼイゴ」と呼ばれるうろこの硬い部分の活用を思い至った。そこから抽出できるコラーゲンには保湿効果があることも分かった。

アジフライ製造会社の三陽(松浦市)から乾燥したうろこを提供してもらい、生物室で半透明のゲルを試作。昨年9月、長崎大研究者に紹介された大阪市の化粧品原料開発会社に成分分析を依頼すると、「塩分濃度が高く不純物が多い」との回答を得た。現在も改良を重ねている。

さん(17)、さん(17)は周囲から(水産業が盛んな)

松浦らしいアイデアだと評価された。商品化できれば理想的。時間がかかるかもしれないが、下級生に引き継いででも形にしたい」と意気込んでいる。指導した鶴林慎平教諭は「生徒たちが主体的に動き、頼もしい」と話した。(福田章)



まつナビ・プロジェクト

検索

CLICK!

長崎県立松浦高等学校

〒859-4501 松浦市志佐町浦免 738-1

0956-72-0141(事務室)

0956—72-0142(職員室)

<http://www2.news.ed.jp/matsuura-h/>